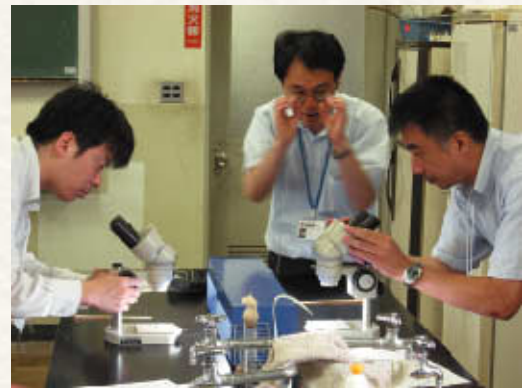


NTTデータ会場での「筑駒の教育」質疑風景



「演劇の専門家」への教壇



「演劇の専門家」への教壇

「非常に消極的だった私が大きな充実感を得ている。(更新)対象でない者にも聴講させていただけないだろうか」「免許更新講習ではなく、このような講習をもっとたくさん先生の先生方が聞きたいと思っているのでは」「本日の講習は即授業に活用できるもので時間を忘れて学ばせていただきました。……正直、意欲は乏しいものですが、……貴重な時間だったと、この更新講習の意義を悔しいが認めざるを得ません。……さすが筑波大です!」

「免許更新制」附属視覚特別支援学校での取り組み

附属視覚特別支援学校 教諭 高見節子

附属視覚特別支援学校では、6月の「附属学校実践演習」、8月の「東京地区」での会場校として、「現代教育の課題と展望」5講習、「教養の新たな世界を体験する」4講習の実施に取り組みました。

6月20日(土)の附属学校実践演習では、5名の受講者に、本校の中・高等部の数学、国語、音楽、自立活動(歩行

指導)の授業参観及び研究協議を実施しました。少人数の中、受講者の方々は非常に熱心に取り組んでいただき、有意義な講習ができました。

8月22日(土)、23日(日)には、会場校として9講習を実施しました。実施に向けて、受講者の方に「有意義であった」「受講してよかった」と思っていたけるように、講習内容、運営面で準備をしておりました。運営面では、配慮を必要とする受講者の方への対応、昼食のための飲食店・コンビニマップの作成など受講者の方には好評でした。

附属視覚特別支援学校での講習は、視覚特別支援学校の特色を発揮した講習内容でした。「現代教育の課題と展望」には、様々な校種・教科の受講者が37名、「教養の新たな世界を体験する」には、38名の受講者がありました。各講座少人数での実施ではありましたが、実技、体験型ワークショップと講義の講習を実施しました。講師の方々からは受講者の方々がとても熱心に取り組んでいたとの感想が寄せられています。受講者の感想には、「実際に実技で体験することができてよかった」「具体的な事例、活動が含まれていてわかりやすかった」「実際に障害を疑似体験できたのはとてもよかった」「少人数であったため丁寧な指導が受けられた」などがあり、受講者の方々にとっては少人数の講座で充実感や満足感が得られたようです。

今年度の講習では、附属障害5校の連携による講習、大学教員と附属教員の連携による講習が実施されました。講習の話し合いを進める中で、講師にとっても学びの場となったこと、大学や他附属の先生方との交流の機会を得ることができたこともとてもよかったと思います。



視覚に障害のある児童生徒の理解(小学と手引)を中心とした講習風景

響きを聴きあうアンサンブルの講習風景



PTA研修会

全附連PTA研修会における全国発信

附属中学校 副校長 館潤二



平成21年度全国国立大学附属学校園「関東・北信越・東海地区PTA研修会東京大会」は、筑波大学附属をおもな主管校に、7月2、3日の両日、96校347名の参加のもと開催されました。『子どもたちの豊かな未来を開くPTA活動』～家庭と学校との連携・連帯～をテーマとして、附属学校園を取り巻く諸課題と、就学期における子育てと教育の現場を支えるPTAに求められることについて、この地区の国立大学附属幼小中高のPTAの方々による熱心な話し合いが繰り広げられました。

各分科会のテーマは、幼稚園部会は「新しい時代に対応するPTA活動」、小学校部会は「児童の安全と情報管理—登下校システムの必要性—」、中・高等学校部会は「有害メディアから子どもたちを守る—PTAの取り組みの在り方—」、特別支援学校部会は「父親の役割の再考・再認識—学校行事やPTA活動における父親の役割—」を掲げ、それぞれ充実した研修となりました。

本研修の主管校は、筑波大学附属小学校、附属中・高等学校、そして大塚特別支援学校と、幼稚園を除くすべての部会を筑波大学附属が担当しました。とは言うものの、実際の企画・運営を担ったのは附属学校の総勢259名のPTAの方々として、特に実行委員長であった附属中学校の江上いずみ氏の奮闘ぶりは、筑波大以外の附属の方々からも絶賛を浴びておりました。

1日目の全体会では、来賓祝辞で附属学校教育局教育長の阿部生雄先生が、基調講演は朝日新聞コラムニストで附属中等学校の卒業生である早野透氏が「日本の政治と日本の教育」という演題で講演を行いました。また、懇親会では、開会の言葉を附属中学校長の藤堂良明先生が、アトラクションとしての演奏はこれも附属中学校卒業生でパーカッションの吉浦健司氏が、そして全国附属連盟のイメージソングの紹介では、附属中等学校PTAコーラスの「ネオパウロニア」が登場し、1日目の全体会を大いに盛り上げていただきました。

2日目は本研修会では初めての企画として、学校を会場とした全体会が、附属中学校の育鳳館で実施されました。午前中に文部科学省の平田博氏のご講演と前日の分科会の報告がなされ、午後は授業参観が行われました。どれも、「さすが筑波大学附属ならではのものばかりであった」との評価で、まさに「附属からの全国への発信」と言えるものでした。

平成21年度 新任教員交流会報告

附属学校教育局 教授 篠原吉徳

今年、附属聴覚特別支援学校及び附属中学校、附属高等学校において、「新任教員交流会(学校見学会)」が実施されました。以下に学校見学記を掲載します。

「始業のベルが鳴る。全ての生徒が着席している。附属中学校で普通に見られた光景である。当たり前のことであるが、実際はなかなかできない。さすが筑波の子どもたちである。授業中の集中力もすごい。自由な気風があり、生徒がのびのびと学校生活を送っている印象が強かった。」(比嘉展寿 記、附属大塚特別支援学校 教諭、附属中学校見学(7月2日))

「簡単な学校紹介のあと、各教科に分かれ、英語科は高校2年生の必修授業を20分ほど参観させていただきました。自分もかつて教えたことのあるfashionに関するレッスンで、生徒たちは先生の指示をよく理解し、英問英答に慣れている様子でした。

授業参観後の附属高校の橘先生のお話も興味深い内容でした。また、これまで附属中高は、駒場と同じく中高一貫校と思っておりましたが、中学・高校は別組織であり、教員の異動も基本的にはないとのこと、駒場との違いを認識しました。廊下や校庭ですれ違う生徒たちの表情が男女ともに明るくのびやかで、教育方針通りの全人的人間教育をなされている学校と拝察いたしました。授業の関係で午後からの参加となりましたが、有意義な見学であったと思います。」(秋元佐恵 記、附属駒場中学校 教諭、附属高校見学(7月2日))



附属中高の見学風景



附属聴覚特別支援学校の見学風景

平成21年度 新任教員交流会報告

附属学校教育局 准教授 熊谷恵子

去る6月23日に、午前中から22名、午後から3名を加えた合計25名の附属学校新任教員が、聴覚特別支援学校の学校見学を行いました。

言葉が聞こえない子ども達の言語をどのように育てていくのか、口話法について、手話について、赴任した学校種を越えて、我々は子どもの教育について多くのことを学べる機会となりました。参加した新任教員同士も学校を越えて交流することができ、今後の附属学校間の共同学習、交流学習の素地となるような交流が行われたのではないかと思います。